明治三十年十二月十八日印刷
明治三十年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第九拾七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衞生雜誌
第九拾七號
目次

講演

◉疾病の素因と誘因　醫學士 岩井禎三君
◉日常の器具に就て　高橋辰五郎君
◉酸素及水素の實驗　山元敬太郎君

衞生叢談

◉產婦の保護
◉嬰兒の保護
◉胃弱者の一經驗
◉精神病に就て
◉あれ性の人に告く
◉食物素人理料法
◉電擊によりて氣絕したるものを蘇生せしむる實際の方法
◉按摩の事
◉室内温暖法
◉小兒腦水腫
◉大日本婦人衞生會記事
◉新潟支會記事
◉廣告數件

大日本婦人衞生雜誌
第九拾六號
目次

講演

◉赤痢病豫防に就て　醫學士 山根正次君
◉赤痢病豫防に就て　宮本仲君
◉大日本婦人衞生會記事
◉廣告數件

婦人衛生雜誌第九拾七號
（明治三十年十二月二十日發行）

講演

◎疾病の素因と誘因

醫學士 岩井禎三君

凡そ疾病は國亂に均しく必す其發動するの日に萌すものにあらすして遠く其根源を存し或る機會を得て起るものなり、彼の卒中の如き極めて健康の外觀を有する人か瞬間に倒れ甚しきは直に生命を失ふに至るは吾人の屢々見聞する所にして近きは山地中將の例あり、一見斯る急病の如きも決して一朝に來るものにあらす、其根さす所頗る遠くして或は父母より若くは祖父母より遺傳するにあり或は多年大酒の結果となり或は十數年前に罹りたる梅毒に源を取り陰に病竈を釀し或る第二の機會即ち劇動、怒責、入浴等の際に卒然發起するものなり

爰に數人同行して均しく寒氣に觸るゝものありと假定せんに各自同一の原因に逢ふも決して同一の病症を發するものにあらす、甲は咽喉カタールに乙は氣管支カタールに丙は腸カタールに罹りて丁戊は更に侵さるゝことなけん、其故如何各人身體の狀況同しからす何處か抵抗力の弱き部分ありて其原因に拮抗する能はざるにより諸般の疾病を發するに至るなり、之に由て是を觀れは疾病の來る必す二個の原因を要するものにして其一を素因（又遠因）と云ひ其二を誘因（又近因）と云ふ先に擧けたる例に就て之を見るに、咽喉、氣管支、腸

等の抵抗力弱きは即ち素因にして寒氣胃腸は即ち誘因なり

尚解し易き一例を設けん爰に性質不良の一少年あり偶惡友の來り誘ふに會へは必す相携へて惡事を働くへし即ち本人性質の不良は素因にして惡友は誘因なり若し本人の性善良ならんには幾人の惡友來り誘ふとも決して惡事に加擔せさるなり

今爰に遠因と近因の例を傳染病に取らんに其病毒たる黴菌は恰も火の粉の如くにして其到達する場所に由て大に狀況を異にす、即ち火の粉の水中に落つるものは直に消へ、土上に落つるものは暫時餘焰を存するも遂に消ゆるに至る藁、木屑等の中に來るものは風を得て火を起し、火藥中に落つるものは直に爆發するに至るべし、傳染病流行時に當り一家一町村同一の關係にありなから諸人悉く發病せさるのみならす其發する人々の症狀に輕重の別あるは其病毒たる火の粉は同一なるも其受くる所の場所即ち各人身体の模樣異なるに因るなり獨醫「クレイン氏が自ら菌を飮みて發病せざりしを以て「コッホ氏の病菌を駁難し、獨乙の大家ペッテンコーヘル氏か其從弟と共に該病菌を飮みて「コレラ」病は單に該菌のみの所爲ならさるを證し、我松本翁は安政年度の「コレラ」大流行の際其大便を取扱たる、葛西の村民、不潔物を以て汚されたる川下の住民中に「コレラ」病を發せさりし事實を見て今日に至るも「コレラ」は傳染病にあらすと云ふか如きは共に本病に罹る素因の有無を證するに足る

上記の如く均しく病毒を受くるも其人々抵抗力の強弱に隨ひ或は重症にして速に死するあり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或は極めて輕症に止るあり、或は毫も感染せざるあり、世俗「弱身に付込む風の神」なる諺を傳ふるは正に抵抗力の弱き徒か病魔に侵さるゝを証するものにして予は寧ろ「弱身か招く風の神」と改稱するの適當なるを信するなり

抑ゝ病毒は敵にして常に吾人身体を襲はんとし相戰ふて勝敗を決するなり、身体の抵抗力强けれは彼の乘すべき機なきが故に其威を逞ふするを得す、之に反すれは彼の侵入する處となり或は生命を奪ひ、若くは甚しき衰脱に至らしむ吾人衛生を講するの眞意は常に身体を强健に保ち、病敵來襲の餘地なからしめ、或は既に彼の侵入に逢へは速に擊退して其猛威を恣にせしめさるを勉むるにあり

然るに世人眼前の近因を以て本因となし毫も遠因に注意せさるもの多し、例之は天麩羅、西瓜、蕎麥等を食し若くは大酒を飲みて後ち「コレラ」病を發するとなれは該飲食物を以て直に「コレラ」の病源なりと速了すれとも此等のものは眞の病源にあらす唯胃腸を損害し以て「コレラ」病毒に繁殖の機會を與ふるに過きさるなり

凡そ病毒の身体に侵入するの門口は種々なるへけれとも其最も屢ゝなるは口なるへし、古語に「口は禍の門」と云へるは多言禍を釀すの謂なるへしと雖も衛生上より其語の頗る今日に適するを覺ふ、病毒の飲食物に混して口より進入するも健全なる消化器には一般に消化液を存し、殊に胃液は其性强くしてよく彼の病毒を飲食物と共に消化し盡すを得べしと雖とも其不健康なるときは即ち抗抵力の減したる場合には病毒繁殖の田畑となりよく

「コレラ」、赤痢、腸チフス等の發生に適せしむ、而して其胃腸の抗抵力を減せしむるの因は主として飲食物の不節制にあるなり、即ち時と量とを定めすして種々の酒類を飲み、或は過度の食物を取り、或は食間に菓子類を食し、殊に夜間寝ぬるに先ちて饂飩、蕎麥等を食し翌朝下痢を來すか如きは吾人の屢々見る處なり、醫聖 ポクラーテスの語に「過量は自然を害す自然の量超ゆへからす」との戒あり、獨り飲食物のみあらす以て日常百般の事物に適用すへし

前陳の如くなるを以て平常注意に注意を重ぬるはよく胃腸を健全に保ち得て赤痢、コレラ、腸チフス」は勿論諸般の疾患を未發に防くを得べし

消化器に次きて病毒の進入する門戸は呼吸器にして主に口鼻よりす、就中世人に最も知られたるものは「ヂフテリア」と肺結核なるを以て以下二病に就て少しく陳る所あらんとす

「ヂフテリア」の恐るへきは勿論吾人のよく知る所なれども其流行たる「コレラ」、疱瘡等の如く甚しきに至らす、且つ近年注射療法の發明ありてより以來早期に該療法を施せは殆と死するものなきに至れるを以て爰に喋々するを要せす

「コレラ」、赤痢、疱瘡等所謂急性傳染病は吾人の最も恐るゝ所にして政府に於ても其流行に際しては頓に政令を布き特に役所、役員を設け、之か豫防に汲々たるは正に適當の義務なるへしと雖とも其流行たる毎年來るにあらす、四季に亘ることなく廣く全國に及ぶことなく其餘毒を子孫に遺傳するものにあらす將た罹病者の半數、其極めて劇烈あるものにありても三分の一は治癒するを得へし

肺結核に至りては全く其趣を異にし陰に人類に損害を與ふること實に彼等の幾數倍なるを知らす即ち其流行四季に別なく、世界各國殆んと之なきの地なく、男女老幼を問はす罹病者にして治癒するもの殆んと之なく、加之子孫に遺傳し、夫婦若くは近接者の間に相傳へ、殊に有爲妙齡の男女を殺し、其死亡數の如きは實に死者の七分の一を占むるは東西諸國統計の一致する所なり、夫れ如斯如何なる疾患と雖も其損害の甚しき恐らく本病の上に出つるものなきは敢て多言を要せす、然るに其病性の緩慢なると日常耳目に觸るゝの多きとに因り吾人の之を恐るゝと彼の急性傳染病の半にも及はさるは實に怪訝に堪へさるなり、歐米諸國に在ては或は衛生局より或は警視廳より肺病患者の居室、食器、衣類は取扱は勿論喀痰の仕末等に就て適當なる訓示あるを見る

近時此の忌むべき恐るべき肺結核の年々其數增加しつゝあるは吾人の親しく見る所にして實に國家の爲めに哀まさるへからす、其蔓延の主なるものを擧くれば結婚の方法不完全にして今日の如く居住移轉の頻繁なる世に於ては舊時の如く系統を糺すと難く、加ふるに婦女結婚の資格に必要なる容貌(色白く、肉薄く、頸長く、氣質敏捷等)は所謂腺病質なるを如何せん、「死ぬる子はみめよし」「才子多病」杯は實に肺病の素因たる腺病体質の形容詞なり、交際に患者自ら遠慮せすして盃を交換し吸付煙草を以て來賓を饗し、小兒を愛するに唇を接し、食物を嚙み軟けて小兒に與へ、猥りに痰を吐き散らす杯恰も肺病を種ゆるに均し、現に予の友人中肺病者の用筆、煙管の吸口、状袋の封糊

等より結核菌を撿出せしものあり、其他轉地療養以て身体の强健を計らんとして却て宿屋の布團、食器杯より病毒を享くるものあるへく、又牛乳を煮て飲めは養分の減するとか消化の悪しきとか唱へ生乳より結核を得るものもあるへし、前年醫科大學に於て市中販賣の牛乳中より結核菌を撿出せしは事實なり肺病死者の「カタミワケ」杯は頗る注意を要すへきものなり、右等は主として病毒撒發の因たるへしと私考するものなり、其他本病に感し易き素因をなすの事も多々あるへし、少年の喫煙、首卷、シャツ、暖室器等は呼吸器の抗抵力を減するの具たるへく石炭を燃すの業日に繁く、道路交通の頻塵埃の飛揚を増し、共に空氣を不良ならしめ以て呼吸器に多少の損害を來すへし

佛醫テスモーラン氏病革なるの日親友相集りて其死を惜む氏曰く予今死すとも世に予に優れる三名醫あり幸に諸氏に紹介せんとて水と空氣と運動の三者を指名し之を適度に撰用すれはよく疾むなきを得んと言了て瞑目せりと云へり多少參考に資すへきを以て今爰に附記す

新瀉支會講演

◎日常の器具に就て

高橋辰五郎氏

予は本日醫師は勿論一般の人にも日常必要なる器具の事に就き述る所あらん元來凡ての器具に必要なるは第一製作の簡易なる事、第二取扱に便利なる事、第三淸潔ならしむるを得る事にして製作し難きものなる時は使用後損所を生するも態々東京邊に送りて修復もせざる可らず、勢ひ少なから

ざる費用と日子とを浪費す可きなり、取扱に不便あるも亦如此にして、清潔ならしむるを得る器械は醫療上到底使用すべきにあらず抑清潔ならしむ可きものは消毒し易きものあり而して清潔と消毒とは通俗の考より云へば甚た相近くして殆と同一なりと見做す可きものなれとも醫學上よりすれば頗る相異あるものにして清潔なるもの必すしも毒なしと云ふ能はず玆に言ふ所の毒とは彼の黴菌とはことにして諸種の傳染病毒チプト其他の腫物の毒をも含めるものなり例せばコレラ病者の居室は何程掃除するも病毒殘り存するが如き事あり此毒を消失せしむるは消毒の手段を取らざる可らず但し彼の黴菌には元と種々ありて通常の黴菌と傳染病の黴菌と腫物及熱等の黴菌とあり之を惣稱して毒といへるものにして此黴菌は單に清潔にするのみを以て消滅せしむ可らず即ち力を消毒法に仰がざるを得ず故に醫師の器械又は看病に用ゆる器械は消毒し易きを緊要とす

古來醫師の器械には彫物等にて高低を附け多く形容をのみ主としたるも、輓近消毒の必要を感ずるに迨び彫刻其他可及的不要の部を除き可成的掃除に便なる樣に爲せり、病室の如きも飾り棚、柱茶器等に高低あるものを用ゐざる樣注意を要す、而して予は從來前述せる製作に簡易にして取扱に便且つ清潔ならしむるを得る器械を工夫し居れるが就中婦人諸氏に必要なるもの二三を示さん

第一手燭なるものは誰人も餘り注意せざるものにして隨て其器少なく、必要の場合には弓張提灯等を點すること屢之れあり而して弓張提灯等は

掃除せざるものなれば種々不潔なるもの丶溜り居るは怪むに足らずして之れを用ゆるときは其不潔なるものに觸れたる手を以て直ちに瘡所に觸る丶事あり、か丶る場合に於て往々化膿を生するに至るものにして產婦に在りては產蓐熱を起す事少なしとせず、依て予は工夫して手燭を製せり

演者現物を示して其利便ある点を辯ず（重寶なること云ふ許りなし因て會員諸君中調製を依賴せられたるもの數人あり）

次は便器なり、是れ最も必要のものなれども從來の便器は通常二尺もありて取扱に不便なるのみならず、其周圍概ね黑塗りと爲り居り粘着性を有し病毒附着し易き恐しれあり加之其底恰も袋の如き處ありて半日も其儘に爲し置く時は大小便其間に侵染して到底掃除出來ざるに至るべし、依て予は熟考して如此工夫せり

演者實物を示して說明す（至極簡便にして實用に適す）

次は牛乳を暖むる器械を拵へり、夜間に小兒に牛乳を飮ましむる場合に當り、寒冷になり居れるものにては害あるも卽座に暖むる能はざるに際し、予が製作せし器械を以てせば容易に之を爲すを得べし、乃ち早く暖めんと欲せば洋燈の火氣を强くせば可なり

演者現品に就き其使用法を詳述す一廉の便益を有す

以上の器械を必要なりと思惟せらる丶諸君は、予之を器械師に取次ぎ注文すべし、其費用は便器六十五六錢にして手燭は僅に十八錢位に過ぎず、本日は之にて降壇すべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉酸素及水素の實驗

山元敬太郎君

本日は酸素と水素との事を說かん已に前回に說きし如く空氣は酸素と窒素とす然れとも酸素のみには物の燃力も動物の呼吸等も凡て急激に失するを以て毒にも藥にもあらぬ窒素を交へて酸素の强さ力を適宜に薄弱ならしめたる者なり

今ま此案上に在るは「エンサンカリ」より取りたる酸素にして空氣にも比すれは五倍の强さある者あり

實驗　燐寸及ひ蠟燭の殘火ある者を素中に入れて再ひ燃燒せしむ

此燃へたる殘りが炭酸瓦斯となる者なり

次に硫黄鐵線等を燃す

水は酸素と水素との化合せし者にして空氣の如き混合せし者と同視す可からす水素は酸素が他物を燃すに反し已れ自ら燃る者あり其光は微弱なれとも万物中最も强し

實驗　蠟燭を燃して倒にせし水素筒中に入るれは水素筒口にて燃へ蠟燭は筒中に入りて消ゆるの實驗をなす

右は山元氏講演の大意なるか實驗終りて降壇せられたり

衛生叢談

◉產婦の保護

M、K

產褥は分娩と同しく生理學上に屬すると雖も之れを病者として取扱かはざれは不思儀の危險を招くとあり故に產褥婦は少くも一週間乃至十日間は仰臥にせざるべからす然らざれは子宮の大なと

ると其重さとと併に其結合の弛緩とに由て後來子宮の轉位(自然の位置を變ずること)を來たすの恐れあり而して第六週後に至れば平生慣れたる事業に就くも既に妨けなし蓋し此時期に至れば生殖器殆んと舊に復するを以てなり

英國に於ては妊娠中に於けるか如く產褥中にも亦腹帯を用ふるを習慣となす其目的たるや腹部の懸垂と腹筋の離開を豫防するにあり之れに反して重き繃圍を腹上に載するとは禁ずべきとす又分娩の際室内に在て濕潤したる褥臥等は必ず新しき温暖のものと交換すべく產褥室は夏に在ては常に窓を開き冬に在ては時々之を開き空氣の交換をなすへし又室の暗きは不快を與ふるとあれば通常の室に置くべし其他精神を安靜に保たしめ心苦等のを避けしめ傍人も須く謹愼すべし

附添の產婆若くは看護婦あらば可なりと雖も然らざる時は褥婦の外陰部は毎日二回以上洗ふべし而して二便排泄後は消毒したる麻布或は綿花を以て之を拭ふを要す而して外陰部は清潔なる綿花又は藁灰繃圍を以て之を被ひ屢々之を交換すべし若し分泌物の多き爲めに襯衣等を用ふる場合には少なくとも毎日一回之れを交換し決して濕潤りたるものを用ふるなかれ又產後三日目に至るも便通なき時は醫師に依頼し處置を受くべし

食物は第一日に於て牛乳若くは淡味にして有力なる肉汁を與へ置くべし而して已に便通あれば固形食物を與ふるも可なり忌むべきものは苛性の食物不消化のもの醱酵性の食品幷にアルコール飲料とす

產婦は特別なる原因あるの外は成るべく自ら授乳

すべし其時期は一日乃至一日半位にして身神安靜となり乳房充盈したる時より始む特別の原因とは産婦にして結核病、精神病、癲癇、熱病等を患ふるか或は甚だしく衰弱したる時に於ては授乳を禁ず又授乳の度數は分娩後第一日に於ては初生兒の欲する毎に與ふるも可なりと雖とも其後は大抵三時間毎に之を與へ夜間は六時間位休むべし尚は時を經れば一晝夜六回にて足れり若し乳汁の分泌增加して乳房腫れ疼痛を感ずるに至れは下劑を服すべし又乳嘴の吸ふに不適當のものは毎日之を牽出して哺乳し易きに至らんことを務むべし

●嬰兒の保護

嬰兒の被服は溫暖なるものを良とすれとも數層相襲りて四肢殊に呼吸の運動を妨害せざらんことを要す我邦に於て屢々此弊害を見聞す注意あるべし其頭部は眞綿を以て輕く帽子を被らすべし而して母の乳を與ふるの外毎日溫浴せしめ身體を清潔に保ち又口中は成るべく毎哺乳後麻布を以て之を拭ふべし之れ初生兒の口粘膜は或る疾患を起し易きが爲めなり然し注意せざれは拭ふの際指先きにて損傷を付することあり最も注意深き人は哺乳に先だち乳嘴を清潔に拭ふて後之れを哺すると云ふ

嬰兒に最も適當なる榮養物は母乳なり之は自然の美祿なれば何ぞ之に勝れるものなきは當然なれ共母體虛弱の爲めか或は疾患の爲め乳汁乏しくして兒に給するに足らざれば乳母に依て滋養を資らざるべからず此際精神病、癲癇、梅毒、結核の遺傳及ひ症狀なき健康なる婦人にして乳房充實完備せる者を撰むを要す、(此乳母の選擇法は本會雜誌八十七號の衛生叢談に記載したり)

巳むを得ず人工に育兒せんとすれば牛乳を用ふ殊に數牛の乳汁を混合したるものを良とす然れ共牛乳は脂肪多して甘味少なく其成分なる蛋白質は硬固する凝塊を形成し乳糖は乳酸に變化し易きが故に哺乳兒に向て消化不良なり又牛乳は不潔物を混じおりて且つ分解し易きの不利あり故に消化し易からしめんが爲めに沸騰水を以て之れを稀釋す其割合は二三の學者間に諸説ありと雖とも記者の可と欲する比例は第一月に於ては牛乳一分水三分とすし第二月に於ては一と二と比第四月に於ては一と一となし第五月の終りより純粹の牛乳を與ふ又甘味を添へんか爲めに蔗糖を適宜に加ふるを良とす又與ふべき量は確定するを得ずと雖とも大略第一日に於て凡そ五十グラム（約三勺）とし其后三十グラムより五十グラムを增加すべし

新しき牛乳を得ると難き場合にはコンデンスミルクを代用するも固より完全のものと云ふを得ず之は甘味に過ぎ腐敗し易ければなり然れども巳むを得ざれば米國輸入の鷲印を使用すべし其他種々のコンデンスミルク市中ニ販賣せらるゝと雖ども概ね牛乳の分量少なく爲めに滋養の効薄し又本邦に於て古來らゝこと稱する者あるも用ふるに足らず西洋に於ても小兒粉と稱し小麥粉と牛乳よりなるものあれ之れ又主用するに足らず若し是等のものを用ふるも四ヶ月以上の小兒にあらざれば不可なり倘ほ幼兒の攝生彼は後日記述する所あるべし

◎胃弱者の一經驗

疾患の數は甚だ多數でありまして昔時の俚諺にても四百四病と申す位でありますが記者も別に勘定したることはありませぬ當今は病の區別が委しく

細かになりましたから中々千や二千ではきかぬ程に相成ましたが御方便にも其多くの疾患中人が屡々罹ります病と余り罹りませぬ病があります之は先日の雜誌に記載致しましたる病因の中に論しましたる内因に關係致しますわけでありますが此疾患中で誰れでも多く患へまするのは胃病であります唯胃病とばかり申しますれは譯なき樣でありますが之れも細別致しますれば其數は隨分多くありますよく始めは不消化の食物を過食しまして胃のカタルを患へそれを充分治療せずして終に慢性となり永の月日不快に暮す人が一番多い樣に思はれます斯の如く相成ますれば醫師も治療法に困難を來たし種々方法を易へ藥劑を與へましても容易に全快さすることは覺束なくあります之れ即ち慢性の胃弱となりましたる次第であります斯なりますと胃も諸種の藥汁に慣れて來ますからいくら藥を用ひても中々効能はありませぬ然し患者の方も之れに慣れて少し位の不快はあまり氣にかけぬ樣になりますが之れ迚も致し方があらぬからであります何か良法もあれば必ず全快したい希望はあるに相違ありませぬ記者の親戚に此御話の標本ともなるべき人がありまして今年五十八年の中老人であります此人は壯年の時は健康ありまして余り大酒家でもありませず其家に重き病氣の遺傳もありませぬが當人三十歲頃より不意と溜飲を起しまして左のみ始めは烈しくもありませぬ故に食物の養生なぞを致したが別に効も見へず其中少しく強く起りますやうに相成ましたから醫師に乞ひ治療を受けましたが良否がありまして容易に全快は致しませぬ夫れより一昨年まで數十年困難致して大學の病

院にも二三度御厄介に成ッたと申すことであります丁度一昨年の春のことで商用で九州に赴きましたる時に滯在致して居ましたる土地に漢方の醫師が居りまして其頃例の溜飮が起りまして旅中のこと大に困却致しましたから其漢方家に診察を乞ひましたるか其醫の申すには此病は今更藥劑を用ふるも致方なし唯每朝顏を洗ひ口を嗽ぎたる跡に粒胡椒(胡椒の粉にせざるものを)一粒宛淸水にて飮用すべしと申されたり尤も生涯一日も欠くことありてはいけぬとのことにて妙な禁厭の樣な法だと思ひましたが物はためしと存じ夫れより買ひ求め楊子箱の中に箱に入れ貯へ每朝之れを飮用致し凡そ半年も持續致しましたるに今迄の苦は悉く忘れ物を食しても何ともなくなり實に愉快になり今日も之れを用ひて居りますと記者に話されました記者も一時は實に妙な話だと存じ之れが効用あるもの如何かと疑ひ居りましたが矢張りためしと思ひ或人に勸めまして之れを行なはせて居ますが未だ日が淺くありますから顯著なる効力は見へませぬがごく造作なきことでありますから若し右の樣に慢性の胃弱を患ふる御方もあらば御試みなされませ粒胡椒は藥舖にあります

記者熟ら考へまするに胡椒は辛き性分を有する嗜好品でありますから之れを粉末にいたし西洋并に日本料理の藥味に致します之れを食品と共に食しますれば胃に入り胃の粘膜を刺戟致しまして胃液の分泌を亢進せしむる効力があるものでありますから漢方家も之れを利用したるに相違ありませぬ唯其粉末を直ちに飮むときは既に口中等の粘膜を刺戟して反ッて胃に入る前に其食道を害するから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

粒のまゝにて嚥下すれば胃中に永く停滯して漸々に胃を刺戟するが爲め胃の消化力を補助する譯でありましよう

◉精神病に就て

世に神經病と申しまするを發狂者と思ふ人が隨分多くありますが之は全く別物であります神經病は腦病、脊椎病及び神經末梢の變化にして運動に障害を及ぼしたり知覺に異常を呈する等の症狀を現はし精神の機能を直ちに害するものでありませぬ精神病は主もに腦の機能的の疾患でありまして病死者を解剖して腦や脊髓を撿しまするも多くは變化を見ませぬものであります此機能は數種ありまして其中屢々障害を蒙りますものは觀念と云ふ機能であります觀念と申しまするとは一度或は數度見聞しましたる事物を腦に貯へ覺へ置きまして再ひ夫れに似たる事物を見聞しましたる時に直ちに想ひ起す機能であります例へば始めて馬と云ふ動物を見て其名を覺へ其后に馬と云ふものは如何なるものと人に問はれますれば之を想ひ出すとができます之れが即ち觀念であります故に健全なる人は少なくも一度見聞したる事物でありませねば之れを想ひ起しはしませぬが精神者は見たと聞たとを種々に誤り綴りて一種特別なる觀念を組立つるものであります此誤りたる即ち病的の觀念を妄想と名付けます此妄想にも種類が多くありまして始終精神中に愉快なる感覺が起りまして自ら禁ずるとが出來ませぬ妄想或は之れに反して絶へず浮世の事が悲しく感じ何を見ても聞ても哀れに思はるゝ妄想或は常に他人より追ひかけれて居るやうに考ふる妄想或は他人より何か危害を加へらるゝ樣

に思はるゝ妄想或は他人より毒害せらるゝやうに考ふる妄想或は此世界が滅亡して今是處にあるは假りのものであると思ふ妄想或は總てのことが宗教に關係しておる妄想或は自身が畜類や木石に化したると思ふ妄想或は自身の体中に畜類が入り込み居どの妄想（是れは日本にて狐付きなどあり歐州には犬付、狼付あり）或は實際病氣であらざるに病氣なりと自ら信ずる妄想或は總て大なることのみを誇る妄想（巣鴨の瘋癲病院に堀江と云ふ患者入院して居りますが當人の言ふ所を聽きますに其祖父は大村益次郎、其母は英國の女皇帝、異母弟は板垣退助と角力の小錦だと申し居ります）或は訴訟を好んでなす妄想或はくだらなきことを頻りに考へ發明せんと思ふ妄想例へば石炭は此世界中に一定量よりなきものなれば日々諸所にて使用すれば終には皆無となりますから今のうち約儉して今迄十噸使用せしものなれば一噸に節し之れに代用するものを考へましたり又は丸き形ちを書くにブンマハシを用ふるから四角や三角のものを書くにもブンマハシを何故使用ひぬか之れを發明したいものだなぞと頻りに考へる妄想或は世の中の總てのものが小さく思はるゝ妄想等であります

是等の妄想は健全なる人にも起ることはありますが直ちに之を考へ直し其然らざることを知り別けることができますが精神病者には之れを分別することが出來なくなりまして益々妄想を激しく致します而して其妄想は始め如何にして起るやと申しますれば四通の方法にて成立つものであります即ち心理上の順序を經て起ります例へば今心痛のことがありますれば如何にして已れに此心痛があるならんとて

心痛の來りましたる說明を求めます若し以前に何か自分に惡しきと思ひしことをなしたる事などありますると其報が來りて此心痛が起りしものと考へまして頻りに後悔のみ致すやうになります又原發することがあります之は精神に曇りなくして健康でありし人に不意に起るものであります例へば今迄何ともなかりし人が不意と其精神に妙な想像が起りまして豈にこんなことはないと思ひまして他に意を轉じましても奇妙な想像が起りまして種々考へを廻しても妙な想像が離れなくなりまして終に之れを信ずるに至ります又幻覺より起るものであります幻覺と申しまするは別に目に見へず耳に聞へざるものが見へたり聞へたり致しまする感覺でありまして自から制することが出來なくあります例へば何にも居らぬのに自身にのみ鬼が見へたり食物を取らんとしますれば耳に夫れには毒が入れてあるから食ふと死すると聞へたり致して終に之れ等より忘想を組立つるに至ります又夢より起ることがあります一体夢は睡眠の始まりまする時と終りまする時に現はるゝものでありまして決して熟睡の時にはみるものでありませぬ時としまする他の談話を夢みることがあります例へば朝起んとしまする先きに來客ありまして何か談話を致し歸ります此談話を夢の中に聞きまして後に誰か來りはせぬかなど云ふことがあります俗に正夢など云ふも此類のことであります

精神病の中欝狂と申しまする症には心痛の觀念のみ精神中に現はれまして其心痛に適當でありまする觀念は別に變りませぬがそれに適しませぬ觀念は遲く起りますだから茫然として生活する間が永

くありますから世の中が面白くなくなり從て心痛を益し爲めに折々は妄行をなすことがありますヌ生れつき精神の發達致しませぬ白癡などにも觀念の起りまする速力が遲くなります即ち物につきて後のことなどは考へることはできませぬ以上は觀念の起る速力が遲滯致しまする例でありますこれと反對にて觀念の起る作用の急促になる精神病がありまず躁狂と申すは常に愉快の感覺のみ起りまして爲めに觀念の發揚を扶け其作用を速く致します恰も健康なる人が愉快なる時か又は微醉のときは言語動作が活潑にありましてずん〳〵演舌などをなすと同樣であります尚は觀念の作用が急促に過ぎますれば種々の觀念が急に起りましてこれを自ら禁むることが出來なくありまして爲めに異なりたる言語が一話中に入りまして一つの話をまとめて申すことができなくなります即ち意味が通じなくなります尚は甚しくありまする と今考へたることを忘れ其次に考へたることを忘れいくつも觀念が出て言語に云ひ顯はす間がなくあり終に單語又は一音位より言ふことが出來なくなります

其他觀念の障害に就きまして述べんと欲することは盡きませぬど余り委細に亘りますれば反つて御退屈と存じ是處に筆を擱きます

◎あれ性の人に告ぐ

身分の貴賤を問はず職業の善惡に拘らずあれ性の人あり斯の如き人は秋期の季に至れば手足或は顏面に皮脂の分泌を減し其局部少しく乾燥して硬固として表皮に小裂を生じ其面は粗糙となる偶ま眞綿の如きものに觸るれば其纖維は手指などに纏ひ使用の際蒼蠅の感を起さしむ世間種々の賣藥ありと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雖も大同小異又用ふべきものなし殊に婦人は手仕事の多きものあればある丶場合男子より多しとなす(細民は例外)醫科大學の傭教師ドクトル、ベルッ氏の處方は此あれ性の人に用ひて効能著しきが故に未だ之れを知らざる人の爲めに其處方を左に記載すべければ之れを寫して藥舗に求められよ之れを大學にてベルッ水と名付く

處方

一苛性加里	〇、五
一グリセリン	五、〇
一アルコール	五、〇
一香水	五、〇
一餾水	八五、〇

右外用

此藥汁は飲用することなかれ又多量を顔面等に使用すべからず唯一滴位を手背に滴下し之れをよく塗るべし殊に夜間入浴の後使用して寝に就けば明朝其効を見るべし

◉食物素人料理

一鹽燒

之は通常鹽を振かけて直燒になすものにして品によりてよく燒くものと生燒にするものとあれ共一々之れを記すは贅なり總て新鮮なる肉類は余り燒き過ぎざるものを良とす小魚は多く全身燒となし大なる魚は切身となし串にさして燒くべし金網又は火箸の上にて燒くには最初之れを火にかけ暖ためおく魚の皮膚に酢を少しく塗り其上に鹽をふりかけて燒けば反りかへらず又皮も剝れずと云ふ

一濱燒

之は元と海濱にて捕りたての鮮魚を海水に浸し置

きて焼きたるなのなり今は魚類を塩水に浸して焼くを云ふ鮑なぞは美味なり

一貝焼

之は貝類を其儘にて焼くとあり然し鮑は貝を放ち薄く切り鰹節の出しにて煮るか或は之れに鶏卵を掛けて煮るか或は海濱なれば其貝殻中にて海水にて煮るもよろし蛤は貝の接合部を切りて焼くべし榮螺は貝のまゝ仰向に火の上に載せて焼き其蓋を取り身を箸或は釘の如きものにて出し小片に切り再び其貝の中に入れ焼豆腐、慈姑三ッ葉等と煮るなり

一焼鳥

之は其仕方種々あれども小鳥は羽をよくむしり皮を剝ぎ臓腑等を取り脊割となし串に刺し生醤油の付け焼となす又蠟燭焼と称へ右の如く羽をむしり腹わたを取り骨ぐるみ能くたゝき或は丸めて串に刺し或は其形蠟燭の如く串へ付け生醤油の付け焼にするもあり又大なる鳥は肉と骨とを分け肉は肉ばかり小さく切り串に刺し骨は能くたゝき醤油を手に付けながら小さく丸めて串に刺し付け焼となすたゝきたる骨を二日位貯へんと思へば之を皿にとり酒を加へ置けば味の變ずることなし然し三日も四日もは請合がたし

一鬼殻焼

之は伊勢蝦、車蝦等を山椒醤油の付焼にするものなり

一すき焼

之れには多く鳥肉を用ふ肉を造り焼鍋に脂肪をひき之れを焼く

一照焼

之は醤油と砂糖とを混し魚を付け燒にするものを云ふ尚ほ上等にせんと思へば美淋と醤油を煮つめたるを以て付け燒にするなり美淋を用ふるときは燒たる後ち光澤出るなり又美淋と醤油へ味噌を少し加へ燒くときは付け燒一層濃くなり下戸の口に適す

一沙鍋燒

之は沙鍋二枚に塩をふり魚又は松茸等を塩の上に並べ沙鍋を合して上下より燒くを云ふ

一蒲燒

之は通常鰻の首と骨とを燒きて美淋、砂糖、醤油にて永く煮つめ之れをタレと云ふ先つ鰻を白燒となし此タレ汁にて付け燒となし重箱の如きものに入れ蓋をなし能くむらして出すなり

一魚肉味噌

之は小魚にて一尾としては煮るとも又燒くこともできぬ小なるものを種々集めて其腹わたを取り擂鉢に入れよく擂りつぶし味噌を混せ再ひ擂り(水氣を加ふに及ばす)燒鍋に之れを取りよく薄く平らにならしその鍋を火上にかけ燒くなり之は屡々浦遊にて行ふ料理法にして相州浦賀港に於て之をサンガ味噌と云ひ記者は玩味したることあり

一甘藷の見習燒

之は冬の夜仕事を勉强し口さびしくなりしときに一寸出來らる芋の燒かたにして甘藷を丸のまゝよく洗ひ金網に火にかけその上に置き甘藷の上に砂糖袋の如き厚紙を被ひ時々紙をとりひつくりかへし見るへし實に程よく燒けるものなり

◎電擊によりて氣絶したるものを蘇生せしむる實際の方法(前承)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二、体を仰向になし頸のまわりの洋襟及び布の類を解き放ち上衣を脱し之れを畳み肩の下に布く溺死者に對し行ふ所の人爲呼吸法を行ふべし之をなすには第一圖に示すが如く其頭の前に膝つきて其兩腕を握り頭の上迄充分延すべし之れに因りて空氣は肺の中に進入す此くの如く腕を延はすと二三秒の後再び前方に曲げ胸の前に置くと第二圖に示すが如くなせば胸は腕に強く壓せられ肺中に入りたる空氣は外部に押出さる斯くの如く爲すと一分間に少くも十六回の割合を以て少くも一時間續け行ふべし然らば自然に呼吸を起すに至るべし

第三、人爲呼吸法を行ふ時他の一人は手拭或は布にて其者の舌をつまみ第二の方法を行ふ時腕を延ばす際強く引出し又腕を押す時之れを元に戻すべし之れも亦一分間に少くも十六回爲すべし之れに因りて咽喉は開き空氣の肺に進入する作用を助く若し口を閉ぢて舌をつまむこと能はざれば棒或は小刀の柄にて無理に口を開かすべし一方に於ては以上の方法を行ひ一方に於て醫師を招くべし醫師來れば適宜左の方法によりて取扱ふべし

第四、体を横に寝かし拇指及び人差指を直腸に押し入れスフヒンクター筋を脊骨の方へ急に烈しく押すべし之れによりて体に刺激を與へ呼吸を引起すべし若し之と同時に第二第三の人爲呼吸法を引續き行はんと欲せば体を仰向になし膝を立てしめ拇指を直腸に押し入れ前の如く取扱ふべし

第五、酸素瓦斯は肺中に入りて之れを刺激し活動

を起すものにして都會或は大市にては容易に之れを得らるゝものなく故に之れを藥劑店より買取り其器に附着する管に薄き紙にて造りたる漏斗形のものを取付け口及び鼻の上に置き人爲呼吸法を行ふと同時に酸素を送るべし然らば酸素瓦斯は肺中に入り之れに活動を與へ蘇生を助くるものなり

斯の如き場合には興奮劑を通常用ゆる如く咽喉中に注入するは無益なれば決して行ふべからず

右は藤田維定氏の記せられたるものにして特に山根氏の十月例會の節會員へ配與せられしものなり

◎按摩の事

秋の末より冬にかけては大に逆上する時節であります殊に婦人は月經不順などありますると一層逆上が烈しく爲めに頭痛、肩張、齒痛等の種々の困難を覺へます故に屢々按摩を賴みなさる方々もあらうと存じますから按摩法とは一体如何なる効力があるものかを御話し申します

古へより我邦に渡來しましたる按摩法は多くは支那流でありまして夫れを諸種に改良致しまして種々の流名を用ひ吉田流、杉山流など申しておりますが別に大なる區別のある譯ではありませぬ到底血液の循環を盛ならしめ神經を興奮せしむる事に止まるものであります今世は歐州に於ても按摩法は隨分行なはるゝことでありまして私の申上まするは目下大學病院にて行なはれまする按摩法を御話し致すのであります

按摩法　之れを行なひますると誰れも知りますれば素人でも出來るものであります先づ人の體を直接に

觸るゝことが必要であります然らざれば効力は薄ふ御座ります揉む時には通例「ワゼリン」と云ふものを西洋にては手指に付けますが夫れには及びませぬが毛の多く生へて居る處を揉みまするには此藥を付けてもみます又軟き皮膚や關節の處は「橄欖油」を用ひます又揉みまする時には患者の位置を都合よく致しておき成るべく筋肉は緊張せぬやうになしておかねばありませぬ手などは天井より紐を下げ之れに摑まらしておき揉むのがよくあります之れは血の循行がよくなる爲めであります又腫脹しておる處や皮下に出血をなしておる處や關節の腫れておる場處は其處より上即ち元の部分を揉みまするど腫脹が去ることがあります

按摩法を分ちまするど次の如くであります

第一　さする法

此法は指又は手の掌にて体をさする法でります患者の指は指にて又病人の手や腕は掌にてさするのであります此法は按摩を始むる時と終る時には必ず行なひまするものであります其効力は知覺神經を刺戟致しまする故に神經衰弱症の患者に行なひます又靜脈を壓しまするから血行を良く致します

第二　もむ法

之はさする法より少しく強くありまして壓する事を兼用致します故に筋肉中の液を壓出致します之は指と拇掌（れやゆびの附根）との間にて揉むわけでありますから痛む時には初の輕くさすり漸次に壓を加へるのであります一体之は筋肉の走る方向を知りて其方向に從ひ揉ませねばなりませぬ腋の下や股の邊は痛みを覺ゆるから避くるをよしと

す

第三　こずる法

此法は拇指や中指や示指にて壓しつゝこする事でありまする手術者の指尖を患者の局部にあてまして腕に力を入れ動かしますそれより跡にてさするのでありまする之は腫脹を去ります

第四　たゝく法

之は一指又は二指或は四指の裏面にて敲く法でありまして成るべく輕く當るやうにせねばなりませぬ腕なぞは指にてたゝくも宜しくありますが肩なれば掌の角にて打く方がよくきゝますが又背部や腰部は拳にて敲くも宜しくありまする之は敲くために筋肉の收縮を亢進し同時にその部分に充血を催します

右の諸法を行ないましたる後には手足等あれば必ず其部分を動かさねばなりませぬ自身で動かしうる患者でありますれば動かさしむべし衰弱して無力となり關節の硬固なる人には手術者が動かしやるのでありまする此動かしかたも初めより荒くなしてはなりませぬ其抗抵運動と申すことをなさせます之は患者の腕を上方に曲げさせ同時に手術者は脉處を輕くおさへ曲げさせんとなすことであります又下脚におきましても同じやうになします

按摩法の目的を申しますればさする法とこする法にては皮膚の上皮が取りさられますから丁度入浴したると一般に汗腺の出口を現はし汗の分泌を良くなし皮膚の新陳代謝を盛になし血行を催がします又もむ法とたゝく法は筋肉の收縮を良くし其興奮を増し其局部に充血を催し營養をよく致します

按摩法を全身に行なひますると消化、血行を良くなし食氣を増し睡眠が出來、便通を調ひまする等の効力がありますから肥りたる人は脂肪が減り痩せたる人は食氣が増して營養を良く致します

◎室内温暖法

室内温暖法は室内を一定の温度に保ち住者をして爽快の感を與ふるを以て目的となす之は温度が其室内に一般に分散し障害を住者に與へさるを良とす成人は二十四時間に非常に多量の温熱を身体より發し空中に分散するものあれば室内を温むれば自然身体の發温を節減するをうるものなり室内の温度は人に向ひ何度を要するやと云ふに各人の職業並に衣服着用の厚薄によりて一定せざると雖ども通常攝氏寒暖計の十六乃至二十度を以て適當となす然れ共熱病を患ふる人に向ひては十乃至十五度を良とし老人或は慢性病者若くは疾病恢復期の人にとりては十八乃至二十度を要す而して一般に寢室は温めざるを良とす殊に逆上する傾きある人には然り室内を温むるには燃燒材料を以て即ち木材、木炭、泥炭、石炭、「コークス」石油、瓦斯等をは其材料なり而して燃燒する成分は其材料中に含有せらるゝ炭素と水素に關係す即ち此原素が多ければ隨て熱を發すると多きものなり充分に燃燒するときは水素は酸素と合して水と化し炭素は酸素と抱合して炭酸瓦斯と變ずると雖ども不充分に燃ゆるときは種々の抱合物を生じ全く燃えざる炭片を殘す之れ煤なり故に室内にて燃料を燃せば有害なる抱合物を除去し煤の聚まらざる方法を考へ唯温熱のみを保たしむる樣に計らざるべからず若し一室に有害の瓦斯を生ずれば他室にも亦之を

及ぼす恐れあれはなり有毒瓦斯は主として炭酸瓦斯なり此中毒の現象は初め頭痛、眩暈、不眠、意想不能、疲勞等を覺へ終に窒息して斃る丶に至る

溫暖法は通常二ツに區別せられ即ち局部溫暖法、中央溫暖法是なり

局部溫暖法は各室を暖むるに器具を其室中に於て燃料を燃すを云ふ之れを再び細別すれば次の如し

第一　爐、火鉢

火鉢は我邦に於て最も多く古來より用ひらる丶器具にして爐は田家に多く行ゐはる丶ものなり歐洲に於ても昔時は之を用ひたれ共屢害あるを以て今は廢れたり其害たる木炭燃燒して發散する瓦斯室內に充滿し其の住者に障害を與ふ又爐にて薪を燃やすときは「タール」或は燒けざる炭末の住者の咽喉又は眼中に入り其粘膜を刺戟して咽喉病或は眼病を起すに至る

第二　竈裝置

之は元來日本造の家に用ふるヿ能はざる裝置なり西洋造りの家に於ては壁の一部に竈を造り煙筒を屋上に建て丶瓦斯を外氣に導く法にして新橋「ステーション」の待合所に見る所のものなり歐洲の暖き所に於て之を用ひ寒き地には之を用ひず何となれば燃燒材料を多く用ふるにも拘はらず室內一般に溫まるヿあたはず而して生じたる溫熱の十分の九は外界に飛散するを以てなり

第三　「カッヘル」暖爐

之は燒きたる陶土を以て造りたる四角形の箱にして其丈け七尺もありて中に厚き中隔を備へたるものにして室內に裝置せらる之は少量の燃料にて永

く暖氣を保ちうれども空氣の交換に不都合のものなり獨逸國幷に露國に於て多く用ひらるゝと云ふ

第四「メイチンゲリ」氏の暖爐

此暖爐は鐵製のものにして温度は輕く且徐々に放散せらるゝ良器なり我邦に於ては記者未だ之を見ず

其空氣交換作用の裝置を備ふる暖爐ありと雖とも其裝置複雜なれば之を畧す

普通の家屋に於ては前述の諸器具を以て室内を暖むるをうると雖とも大なる建物例へは學校、病院兵營に於ては器具の多數を要し且つ平等に温むるとは困難なり加之各室にて炭類を用ふる故に塵埃を生じ易し之れが爲めに寧ろ中央温暖法を採用するの勝れるに如かず

中央温暖法は一ケ所に於て温熱を造り之れを鐵管等に依て各室に分配する方法を云ふ而して其温熱を保ち行く物質は空氣或は水蒸氣を用ふ故に空氣温暖法と水蒸氣温暖法の區別ありとす

第一　空氣温暖法

之は家の下部に穴藏を造り煉瓦石にて四壁を固め其中に一個の大暖爐を裝置し此暖爐より鐵管を各室内に導き庭園に空氣を聚むる建物を造り是處より大氣を採り暖爐を燒すに隨て大氣は漸次温暖となり各室を循環する方法なり此法は室内温暖法中最も古き方法にして今や之を用ふる人なし何ぜなれば室内の空氣は一種の惡臭を有し且つ水分を含むと少なくなるを以てなり

第二　水蒸氣温暖法

之は穴藏を屋下に堀り蒸氣釜を之れに据へそれよ

り管に依て室內の溜に通し此溜より再ひ數管を各室に分配したる裝置にして釜に水を盛り之れを溫むれば隨て熱湯管を經て溜に行き是處より管を通りて各室に溫を放散するに至る尤も此裝置は蒸氣の壓力に因て屢々破裂する危險あれば之れを避くべき裝置を要す

中央溫暖法にて溫められたる室內に棲息する時は溫度平等にして輕く甚だ愉快を覺ゆ我醫科大學にて新築の病院は水蒸氣溫暖法を使用し居れり

◉小兒腦水腫

此症は生れつきと生れたる后ちに得るとの兩者がありまして其生れつきのものは多く死んで生れますか又は產のときに生れませぬために醫師が手術して出しまする頭の鉢の大なる疾病であります

生れたる後になりまするのは外見上全く健康の小兒として生れ二三ヶ月の後に漸々頭が脹れます之れを驗べて見ますると腦の中部に水液が溜り居するものと腦の外面に水液が溜りまするとの二ツがありますが通常は腦の中部に溜る方が多くありまして夫れが爲めに腦が壓されて發育が不完全となり又頭骨の生長を妨げまして甚しき時には腦は紙の如く薄くなります

小兒は漸次不安となり嘔吐、下痢、綠糞を洩らし頭部が次第に增大となりまして而しくひよむきの所は開き頭に靑筋が出て來ます夫れより下脚は痲痺を起す等俗に種々の症狀を呈します

斯の如き小兒は五六歲に生育することは稀れでありまして大槪は早世しますより偶々生長致しまするも白痴となります醫師も其治療に殆んど困難致

して居りますから早くこんな病を全治する方法を
發賣致したくあります

大日本婦人衞生會記事

十二月例會　本月は京橋區に於て開會の順序なりしを以て去四日(第一土曜日)午后一時より內山下町華族會館に於て例會を開きたり當日は總裁　小松宮御息所殿下御臨場在らせらるゝ御沙汰なりしをもてその準備を爲せしが少々御不快に渡らせられ外出御見合せの爲め御臨場あらせられざりき出席會員及傍聽員凡百貳拾余名女子高等師範學校山川二葉師には同校女學生數十名同伴傍聽せしめられき第一席には醫學博士三宅秀君學校衞生より延いて衞生上の注意を促がし次に醫學博士坪井次郎君には解剖模形及び人體圖等に就き生理解剖上の講演あり右終り四時頃一同散會せり

追而來春一月の例會には麹町區に於て開會の豫定にて當日は**新案福引の餘興**之れあり傍聽同伴者へも等しく福引を呈すべきをもて會員は勿論御親戚御知友御同伴あらんことを

◎本年八月以降寄送雜誌

大日本私立衞生會雜誌	四冊	大日本私立衞生會
藥石新報	十二部	藥石新報社
三重衞生雜誌	四冊	三重衞生會
埼玉衞生雜誌	四冊	大日本私立埼玉衞生支會
中外藥報	三冊	中外藥報社
山梨支會會報	一冊	大日本私立山梨衞生支會
越佐教育會雜誌	四冊	越佐教育會
婦人新報	四冊	婦人新報社
衞生叢論	二冊	聖會本塲
普通看病學	一冊	本鄉吐鳳堂

廣告

◎入會者

○去十一月より十二月に至る入會轉居者左の如し

◎臼井八重子の紹介に依り
深川三好町五番地　野々宮みよ子
◎賛成員山根正次君の紹介により
麻布材木町　藤岡千勢子
◎事務所へ申込により
神田末廣町二十二番地　青山はの子
牛込赤城下町二十二番地　增田せい子
本郷湯島天神町三丁目十一番地　北川なを子
廣島縣廣島市鐵砲町山中正雄方　日下恆子
山形縣西村山郡寒河江町　淸水てい子
函館區大町四十四番地　松田あみ子
越後國古志郡長岡町阪上町長岡病院　渥見かな子
◎岩本利子の紹介により
下澁谷日本赤十字社病院內　鈴木久良子
◎新潟支會へ入會
新潟市白山浦一丁目　早川せき子
新潟市本町通八番町　佐藤みつ子
日本赤十字社新潟支部內　杉本きん子
仝　井隨つる子
仝　野口喜勇子
仝　戸川つぎ子
仝　鈴木とり子
仝　西巻くわい子
仝　武山せい子
仝　日野つう子
仝　大平乙女子
仝　久保田てつ子
仝　佐藤くら子
仝　若山みと子
新潟市上旭町通壹番町　吉村きよ子
新潟市西堀前通三番町　黒田むつ子
新潟市學校町通一番町　竹村てい子
新潟市學校町通一番町二番戸　水野さと子
新潟市古町通十三番町　水野さわ子
◎新潟支會幹事澤田とら子の紹介により
新潟縣中蒲原郡山田島村大字台子ヶ作　田代むつ子
◎新潟支會幹事中野悦子の紹介により

新潟縣苅羽郡岡野町村　村山珠雄子

◎轉居者

麻布市兵衛町一丁目六番地へ　早田純子
麻布東町四十四番地へ　上村喜代子
神奈川縣三浦郡豊島村中里七十番地へ　山崎富志子
神奈川縣三浦郡大字中里へ　勝田久米子
神奈川縣横須賀逸見三十三番地へ　石田たけ子
横濱市野毛町三丁目百十七番地へ　福地靜子
相州横須賀中里七十番地へ　丹治春子
山形市旅籠町字寒河江町二百三十五番地へ　沖野柳子
麹町永田町壹丁目十九番地へ　服部繁子
小石川西江戸川町廿六番地へ　植松千代子
牛込區谷田町二丁目三十一番地へ　呉こと子
芝區城山町七番地へ　沖きよ子
本郷千駄木林町五番地へ　和田垣つお子
麹町區富士見町三十三番地南部屋敷内へ　春日井晴子
麻布龍土町十二番地へ　早川春子
麹町内幸町一丁目三番地へ　高橋清子
麹町區下六番町十九番地へ　岡山とし子
牛込市ケ谷仲ノ町八番地へ　宮本幸子
麹町永田町二丁目三十二番地へ　市尾はつ子
本所吾妻橋向佐竹屋敷内へ　松岡光子
麹町區永田町一丁目十九番地へ　皷尾作子

地方會員へ廣告

地方本會員にして會費金未納の御方は至急本會事務所（東京下谷練塀町四十三番地）宛郵便為替取扱所振込にて御送附被成下度奉願候也

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とすることある可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　每會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但し會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

明治二十一年二月二十八日內務省許可

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の捡印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止塲合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれは之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會塲は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地

私立　大日本婦人衞生會

明治三十年十二月十八日印刷
明治三十年十二月二十日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衞生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可每月二十日發行　（定價金拾錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN